



住民の主な意見の反映

多数寄せられた意見の集約	特に具体的な意見
自然や生物に配慮した整備を望む	三本松塚にせひ魚道を作って稚魚が上流に登れるように改修を要望したい。 (中心に魚道らしきものがあるが稚魚が登れるかどうか)夜、薄場橋の上を通ると、とても嫌な悪臭がしているときがあるのだが、すぐ近くにある浄化センター関係しているのか？ 何を流しているのだろうかと思ひ不安になる。 下流の方で、アユ釣りやスズキ釣りをしている人がいるのに大丈夫かと思う。
樹木を残して樹木を増やして	下流域(特に薄場橋下流域)の場合に樹木を植えて欲しい。 川の動植物にも木陰が必要です。 薄場橋から下流の両岸の改修工事により、樹木がなくなり、渡り鳥等季節の鳥が全くいなくなったことが残念である。 早く昔のように鳥がとまれるような樹木を植樹して欲しい。
自然を回復して欲しい	小さい頃、薄場橋の下付近ではシジミ貝の生息を見ていた。 昔のように自然の白川に替って欲しい。 新土河原の橋(歩道)を渡るヒヨドリが臭い、早く昔の白川になればと思う。



河畔林の配置に合わせた整備イメージ

- ・利用しやすい川づくり
自治体と調整しながら緑地や散策路、サイクリングロードを整備します。
- ・緑の拠点作り
自治体と調整しながら樹木群、植生群を保全・創出します。
- ・親しみのある川づくり
堤防や護岸に階段やスロープを設置するなど、バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を取り込んで整備します。

凡例

図記号	解説	備考	
	植生群	水当り裏側の洲に植生を図り、生物の生息空間をつくります。	事業主体について、地域や自治体と調整を図り、洪水に対する安全性を確認しながら取り組みます。
	樹木群	川幅に余裕がある箇所植樹を図り、野鳥の飛来する場をつくります。	
	魚道	三本松塚、十八口堰に魚道を設置することを検討します。	堰の管理者との調整を図りながら取り組みます。
	保全対象生物	保全が望まれる生物です。	